

こいまり 酒がおいしい古伊万里展

Drinking Vessels in Old Imari

はこぶ・そそぐ・かたむける 酒あるところにうつわあり



厳かな神事から日常の憩いまで、酒は様々な場面で人々の生活に寄り添ってきました。酒を運んだり保管したりするための瓶、うつわに注ぐための銚子、酒を口にするための杯や猪口など、酒を楽しむ際にうつわの存在は欠かせません。

江戸時代に実用品として流通した伊万里焼のなかにも、運搬、注酒、飲酒など酒にまつわるあらゆるシーンに登場したうつわがあったでしょう。

今展では、伊万里焼を飲酒の場面で「使う」ことに焦点を当てます。江戸時代の酒文化にも触れつつ、酒をおいしく楽しめそうなおうつわ約80点を、絵画や文献史料も参照しながらご紹介いたします。

※絵画・文献史料の出展はございません。パネルにて掲示いたします。

開催情報

展覧会名：酒がおいしい古伊万里展

会期：2026年7月3日（金）～9月21日（月・祝）

開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

※金曜・土曜は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）

休館日：月曜・火曜

※7月20日（月・祝）、8月11日（火・祝）、9月21日（月・祝）は開館。

※8月1日（土）は「ファミリーデー」として開館。

入館料：一般1,300円/25歳以下500円/高校生以下無料

※一般以外は要証明書。

会場：戸栗美術館（東京都渋谷区松濤1-11-3）

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分

京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

展覧会詳細

※ 画像①～⑤および展覧会ポスターの画像データをご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙画像利用申請書をお送りください。

酒にかかわるうつわのことを「酒器」と呼びます。土器の盃「かわらけ」や漆の盃、瓶子、陶磁器の杯や金属製の銚子、提子など様々な素材の器種（うつわの種類）が酒器として使用されました。加えて、江戸時代には料理文化の発展および居酒屋や料亭といった外食文化の展開に伴い、伊万里焼などの磁器のうつわも食事や飲酒の場を彩りました。式正の場では、かわらけや漆器、金属器が主に使用されたようですが、江戸の風俗を色濃くあらわす浮世絵には、年中行事や行楽、日常の場面などに磁器を用いる様子がうかがえます。

今展では絵画や文献史料を参照しながら、江戸時代の酒文化とうつわの関係性を紐解きます。また、現代にも通じる酒器としてのうつわの楽しみ方もご紹介いたします。

主な出展作品

◇ 徳利（器種：瓶）

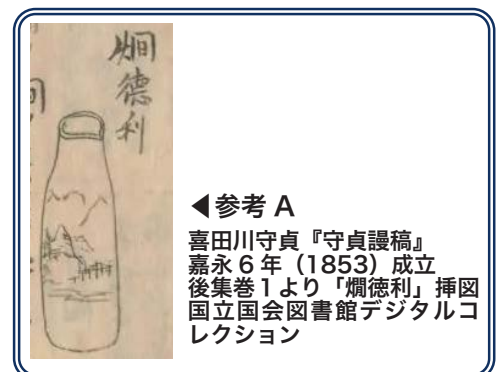
江戸時代の徳利には運搬・贈答・保存容器と注酒器・温酒器がある。前者は大瓶である場合が多く、中身は酒に限らない（画像①）。なお、酒の入った徳利から盃や杯などの飲酒器には直接注がず、銚子などの注酒器に移してから楽しんだ。

後者は所謂「爛徳利」にあたる。幕末頃に登場する器種で、主に瀬戸美濃産の作例が知られる。酒を爛するほか、注酒器としても使用した。現代でも馴染み深い一合徳利に繋がる器種である（参考A）。



◀画像① そめつけ きかがくもんびん 染付 幾何学文 瓶

伊万里 江戸時代（17世紀後半）
高 38.8cm 戸栗美術館収蔵



◆ 異素材をかたどった作例

伊万里焼には、本来は木や金属など磁器以外の素材で作られる器種をかたどった作例がある。本作は婚礼などの祝い酒を贈答するための角樽を模した瓶。器面には酒好きの伝説上のいきものである猩々をあらわす。なお、猩々は能の演目としても知られるほか、無病息災の吉祥も内包する。

◀画像② そめつけ しやうじやうもん つのだるがたびん 染付 猩々文 角樽形瓶

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 高 27.0cm 戸栗美術館収蔵

◇ 銚子 (器種：水注)

注酒器。本来は長柄の付いた金属製の温酒器を指す言葉だが、上部に弦のついた提子や温酒器である爛鍋の形を模したのも銚子と呼ばれる。漆や陶磁器など様々な素材で作られる。

◇ 杯 (器種：杯、猪口など)

酒を直接口にする際に使用するうつわ。漆の盃や土器のかわらけが代表的だが、江戸時代には磁器の杯も飲酒器として使用されたとみえる。

猪口には本来、菜や調味料を盛るが、近現代では酒器として使用する例も見られる。



◀画像③ 染付 龍文 水注・染付 蘭文 杯

伊万里 江戸時代 (17世紀前期)
(水注) 高 14.7cm (杯) 口径 4.9 ~ 7.6cm
戸栗美術館収蔵



◀画像④ 染付 蘭文 猪口

伊万里 江戸時代 (18世紀) 口径 7.2cm 戸栗美術館収蔵

◇ 盃洗 (器種：鉢など)

字の如く盃をすすいで清めるためのうつわ。酒を飲み干し、返盃する際に水をはった盃洗に盃を潜らせ、軽く洗う。大鉢や手つき鉢、高足のゴブレット状のうつわに水をはり、盃や杯などを浮かべる様子が浮世絵などで確認できる (参考B)。



◀画像⑤ 染付 白抜蛸唐草文 鉢

伊万里 江戸時代 (18世紀前半) 口径 30.5cm 戸栗美術館収蔵



◀盃洗部分拡大

◀参考 B
三代歌川豊国「太平婦女独遊」
国立国会図書館デジタルコレクション

展覧会紹介文

- ◇ 江戸時代の酒文化に触れつつ、酒をおいしく楽しめそうなお品約 80 点を展覧。(37 字)
- ◇ 江戸時代に実用品として流通した伊万里焼には、運搬、注酒、飲酒など酒にまつわるあらゆるシーンに登場したのもあったらう。館蔵の伊万里焼を中心に、酒をおいしく楽しめそうなお品約 80 点を紹介する。(97 字)
- ◇ 厳かな神事から日常の憩いまで、酒は様々な場面で人々の生活に寄り添ってきた。酒を運んだり保管したりするための瓶、うつわに注ぐための銚子、酒を口にするための杯や猪口など、酒を楽しむ際にうつわの存在は欠かせない。江戸時代に実用品として流通した伊万里焼のなかにも、酒にまつわるあらゆるシーンに登場したうつわがあったらう。今展では、江戸時代の酒文化に触れつつ、酒をおいしく楽しめそうなお品約 80 点を絵画や文献史料も参照しながら紹介する。(215 字)

会期中の催し物 ※詳細は当館 HP・チラシをご参照ください。

- ◇ 展示解説
 - 7 月 18 日 (土)・9 月 12 日 (土) 各日 14:00 ~ (約 45 分)
 - 参加費無料 (要入館券) □ 予約不要
- ◇ ラウンジ & ギャラリー・トーク
 - 「浮世絵から見る磁器と酒」(講師: 当館学芸員)
 - 7 月 27 日 (月) 14:00 ~ (約 120 分/要予約・有料)
 - ※当日はご予約の方のみご入館いただけます。

≪夏休み特別企画 8 月 1 日 (土) は「ファミリーデー」≫

◎中学生以下の方とのご同伴で一般料金から 200 円割引

◎「1 日おしゃべり鑑賞会」

会話をしながらご鑑賞いただける日として開館いたします。

◎「やきもの絵付け体験 昔ながらの文様を描いてみよう」

当館学芸員が古伊万里の伝統文様のひとつ「蛸唐草」の描き方をレクチャー。その後、上絵具マーカーで白磁のミニカップへの絵付けを体験していただけます。お子様の制作された作品は当館で焼成し、後日郵送いたします (※送料着払い)。

■対象年齢: 小学 3 年生~中学 1 年生 (目安) 参加費 お一人様 1,500 円 (税込) ※ご同伴の方は要入館料。

次回展予告

めぐってたのしい 佐賀・長崎のやきもの展

2026 年 10 月 7 日 (水) ~ 12 月 20 日 (日)



青磁錆釉染付 獅子置物

三川内
江戸時代(19 世紀)
高 17.4cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL: 03-3465-0070 FAX: 03-3467-9813 E-mail: kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト: <https://www.toguri-museum.or.jp/>